

商業教育 140 周年記念 令和 6 年度第 32 回全国高等学校生徒商業研究発表大会
審査委員長講評

令和 6 年 11 月 21 日

生徒の皆さん、発表ご苦労様でした。どの研究も甲乙つけがたい発表でした。私からは発表を聞いて、気づいた点を話して講評とします。

まず、研究テーマですが、多くのテーマが地域活性化でした。現在、少子化による人口減少が進む中で、地方にとって地域の活性化は喫緊の課題であります。その中で、自分の生まれ育った地域を何とかしたい、なんとか元気にしたい、故郷を大切にしたい気持ちはこれからも持ち続けてください。それでは、地域活性化のために何をするのか？取り組んだ研究の半分ほどが商品開発でした。レトルトカレーやアメ、ランタンといったモノ消費の商品を扱ったものです。一方で見えない商品、いわゆるサービスを扱う研究も増えたように感じます。イベントとして環境フェスタやクリスマスフェスタ、今回はスポーツを題材とした研究もありました。また、観光ビジネスの影響もあって、観光ツアーを扱う題材も多くありました。しかし、その取組は単に史跡や名勝を案内する観光に終わらず、ふるさと納税の返礼品や移動ツールにキックボードを使うといったように新たな価値を付け加えた研究でした。また、最近にはない珍しい分野として、情報分野を扱った研究として福祉と絡めたアプリ開発がありました。また、原価計算を活用した経営コンサルがありました。私は、これまでの商業研究で会計分野を扱った事例を目にしたことがありません。目新しい斬新なテーマが高い評価に繋がったと思います。

次に実践です。この商業研究発表大会の大きな見どころの一つは、研究の中で実践を行っている点です。マーケティングの 4 P になぞらえると、まずは Product、商品です。なぜ、その商品にしたのか？なぜ、その商品にその素材を使ったのか？それは地域の特産品だから、あるいは、廃棄される物だから、といった地域や環境に配慮して決定したものが多く見られました。次に Price、価格です。なぜ、その価格なのか？原価計算した結果のコスト基準やファンベースを採用した研究もありました。また、価格そのものを研究テーマとしたものもあり、価格 1 つをとっても様々な視点が見られました。次は Place、場所です。なぜ、そのお店にしたのか？大量消費による廉価販売ができるスーパーでは太刀打ちできない、そこで道の駅やサービスエリアで販売したら売上が伸びた成果が得られたことは、実践したからこそ気付いた点でした。また、販路を拡大させるために、流通経路に着目し、卸売商を介在させた研究や、3,000 人の町に 2,000 人を集客した壮大な実践もあり、様々な成果が見られました。最後は Promotion、販売促進であり、様々な取組が見られました。広告やリーフレットといった従来の手法のもや、SNS やデジタルサイネージといった ICT を駆使したものもあります。その中でもデジタルサイネージでは、商品そのものを被写体とするのではなく、収穫から出荷までの様子を映像としたものがあり、食の安全を訴求する新しい視点が見られました。

ここで皆さんに伝えたいことは、「なぜ、その商品なのか？」、「なぜ、その価格なのか？」、「なぜ、その場所なのか？」、「なぜ、そのプロモーションなのか？」、これらの「なぜ」に真剣に向き合った度合いが評価の差になったことです。これらの「なぜ」を解くために、様々な情報を集め、様々な手法で分析して実践する、その深さが評価の差となりました。

今大会では、私のほかに 4 人の先生が審査に関わりました。その 4 人の先生からも意見を聞きましたので、皆さんに紹介します。

まず一人目です。「正直、全ての研究が本当によくやっていた。地域の企業や役所などと連携して、新たなビジネスに挑戦し、新たな価値を生み出していた。高校生のエネルギーに感服した。」

2人目は、「コト消費の研究が多かったように思う。企業も、高校生との連携を望んでいることがわかった。今後も企業と連携して実ビジネスの活動を、ぜひ体験してほしい。」

3人目は、「まず堂々とした発表に感動しました。今回のような発表機会はなかなか経験できることではありません。でも、この経験はこれからのビジネス社会で必ず役に立ちます。また、テーマの設定では、価格そのものを扱ったものや、触れるビジネスといった斬新なアイデアがありました。こういった新しいアイデアが増えるといいですね。」

最後は、「どの研究も社会の流行に合わせた内容を取り入れていた。時事的な題材として、AIやふるさと納税といった最近の内容を取り入れ、しかも、その新しい内容の特性をよくつかんで研究に取り組んでいた点が良かった。」

加えて、私たち審査員が評価について話をしていた中で、一つ皆さんに要望があります。それは発表の中に、効果音や演出を入れているものがありました。私たちが皆さんの研究で期待しているのは、企画、実践、検証のこの一連の取組の深さです。商業に関する適切な企画であるか、課題解決に向けた有効な実践になっているか、客観性を踏まえた検証になっているか、本大会は、その企画、実践、検証の深さを見せる場であるということを再度確認してください。

結びに、生徒の研究や発表の精度の高さを見て、指導にあたった先生方が多くの時間をかけ、丁寧に指導されたことをうかがい知ることができました。先生方のこれまでの指導に審査員一同、敬意を表します。本当にありがとうございます。この生徒たちが今回の経験をもとに地域に戻って、地域を力強く支える人材になってくる+ことを願って、私の講評とします。皆さん、本当にお疲れさまでした。